

2019年

第1回

一般社団法人公認心理師の会

研修会

関東開催

2019年

10月19日



【午前の部】 10:00～13:00

【午後の部】 14:00～17:00

東京大学駒場キャンパス21KOMCEE EAST 211・212・213室 東京都目黒区駒場3-8-1

後援 厚生労働省（申請中） 文部科学省（申請中）

公益社団法人日本心理学会 公認心理師養成大学教員連絡協議会（公大協）

午  
前  
の  
部

10:00～13:00

◆WS1 不登校はもっと予知できる・心のエネルギーはずっと効果的に蓄積できる

講師：神村栄一（新潟大学）

◆WS2 医療における現場実習のはじめ方とすすめ方

講師：谷口敏淳（一般社団法人サイコロ）・五十嵐友里（東京家政大学）

◆WS3 犯罪・司法領域における心理臨床：エビデンス・ベストプラクティス

講師：原田隆之（筑波大学）

13:15～13:45 理事長講演（同会場にて実施。理事長講演は無料・事前予約不要。どなたでも参加可能）

午  
後  
の  
部

14:00～17:00

◆WS4 産業分野の心理的支援における多職種・多機関連携

講師：田上明日香（SOMPOヘルスサポート）・谷口敏淳（一般社団法人サイコロ）

◆WS5 エビデンスにもとづく統合失調症の心理的支援

講師：石垣琢磨（東京大学）・古村健（東尾張病院）

◆WS6 行動嗜癖に対する行動にこだわった理解と支援  
—行動分析学と行動経済学の応用

講師：蒲生裕司（こころのホスピタル町田／北里大学）

【参加費】 1ワークショップにつき 会員4,000円 非会員6,000円

事前予約が必要です 申し込み方法はホームページをごらんください

ご予約  
お問い合わせ

一般社団法人 公認心理師の会 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-13 田村ビル

公益社団法人日本心理学会 事務局内

ホームページ <https://cpp-network.com/workshop.html>



## **WS1 不登校はもっと予知できる・心のエネルギーはずっと効果的に蓄積できる 講師：神村栄一（新潟大学）**

増加する小中学校から高校までの不登校とひきこもりについて、現場での支援につながるアイデアを情報提供します。不登校は、小1から中3まで増え続けます。「現在、元気な子の中で、1年後に不登校になっている子はだ〜れ？」と予測を求められたら、いかなるデータを参照すべきでしょう。「自己有用感」など、「何とでも有意な相関が得られるので研究には好都合な潜在変数」で理解したつもりになっていないでしょうか。問題発生してから「後づけの理屈」「後づけの心理検査解釈」で、理解できたつもりになってはいないでしょうか。「発達障害を見いだすために不登校は防ぐべきではない」とのトンデモな意見が一部にあるそうですが、一般の学校に通う児童生徒に「障害の鑑別」を優先し医療の問題としたがる教師のホネはどこにあるのでしょうか。不登校の未然防止について家庭にはいかなる「愛情のカタチ」を提案すべきか、など。そして、長期化した不登校事例を前によく語られる「心のエネルギー」について、実は効果的な「ため方」があるのに、「待ち」の対応の提案だけでよいのか。これらを取り上げます。

## **WS2 医療における現場実習のはじめ方とすすめ方 講師：谷口敏淳（一般社団法人サイコロ）・五十嵐友里（東京家政大学）**

公認心理師養成において、医療分野での実習は重要視されている。しかしながら、心理系大学院における医療現場での実習は、これまで各大学教員と現場の心理職や医師の個別のつながりで行われていることが多く、実習に関する内容や形態などの統一したコンセンサスは得られていない。こうした状況下で2018年度入学の大学院生から実習が開始されている。すでに多くの大学および医療機関で実習が開始されていると思われるが、医療現場実習が初めての大学や、実習を初めて受け入れた医療機関では手探りで行なっていることと思われる。本ワークショップでは、医療現場の実習指導者や、実習を担当している大学教員を対象に、講義とグループワーク形式で行われる。具体的には、医療現場実習や大学の状況に関する話題提供を題材に、参加者同士の話し合いを通じて医療現場実習の現状の課題、対策について整理する参加型のワークショップにしたいと考えている。

## **WS3 犯罪・司法領域における心理臨床：エビデンス・ベイストプラクティス 講師：原田隆之（筑波大学）**

心理臨床に携わる者であれば誰でも、非行・犯罪に関する問題を有しているクライアントに接することがあるだろう。しかし、実際にこの領域で仕事の経験がない者は、苦手意識があるかもしれない。最終的には専門家にリファーするにしても、最低限の知識や技能が必要なことは言うまでもない。

本ワークショップでは、犯罪・司法領域での臨床に携わる公認心理師はもちろんのこと、すべての公認心理師が知っておくべき犯罪・司法分野の心理臨床の枠組みと技能を解説する。さらに、最新最善のエビデンスに基づく心理臨床について、その具体的な技能を体験的に習得することを目的とする。エビデンス・ベイストプラクティスは、臨床上必要な理念ではなく、それを実践するためには、数々の臨床技能が必要であるため、それらを身につけることは、効果的かつ倫理的な臨床のために必須である。

## **WS4 産業分野の心理的支援における多職種・多機関連携 講師：田上明日香（SOMPOヘルスサポート）・谷口敏淳（一般社団法人サイコロ）**

心理職が「組織」の課題解決のアプローチをする際には、そのアプローチによって課題が改善され、さらに定着していくことが重要であるが、その般化のプロセスには産業医や産業看護職等の産業保健スタッフ、人事労務担当者や、現場の管理職などの協働が不可欠である。したがって労働安全衛生の基本的な知識や標準的な人事制度の理解などの基本的な考え方は共通言語を話すために必須であるし、それをふまえて、心理職としての知見をどのように状況にあわせて（改善可能なことを）提案していけるかが腕の見せ所といえる。しかしながら、前提として不可欠な共通言語についてさえ、学ぶことができる環境は十分ではない。本研修では、産業領域で働く心理職に限らず、働く人を支援する心理職が①労働関係の法令や一般的な人事制度の理解を通して、働く人の支援に活かせる知識を提供し、②連携のポイントと心理学的スキルの活かし方を通して、社内外の連携の際に必要な心理学的支援の実践についてイメージを持てることを目的とする。

## **WS5 エビデンスにもとづく統合失調症の心理的支援 講師：石垣琢磨（東京大学）・古村健（東尾張病院）**

統合失調症への認知行動療法（以下、CBT）は、統合失調症を疾患単位として考えることをいったんやめて、陽性症状（つまり、主観的な病的体験）への認知心理学的研究を参考にしつつ、気分障害や不安障害へのCBTを応用することで発展した。本ワークショップでは、英国で有効性が実証され、治療ガイドラインでも推奨されている幻聴と妄想へのCBTを中心に解説する。また、妄想に対する集団介入法として、ドイツのハンブルク大学が中心となって開発されたメタ認知トレーニング（Meta-Cognitive Training：MCT）も治療効果をあげている。本ワークショップでは、CBTとMCTを中心にした体験的演習と、日本における実践例の報告を通して、統合失調症の心理的支援について理解を深める機会にしたい。

## **WS6 行動嗜癖に対する行動にこだわった理解と支援：行動分析学と行動経済学の応用 講師：蒲生裕司（こころのホスピタル町田／北里大学）**

ギャンブル障害はアルコールやその他の薬物依存症と異なり、薬物の直接作用で嗜癖が生じるのではない。また、薬物は摂取する度に、多少なりとも、薬物の効果が得られるが、ギャンブルの場合は常に勝てるわけではない。そこで、ギャンブル障害を扱うには、単純に「当たり」というギャンブルの結果だけでなく、確立操作、弁別刺激など、ギャンブルという行動の随伴性を考える必要がある。さらに、長期的なコントロールでは、行動コスト、遅延報酬割引、選好逆転など、行動経済学の概念を用いて個々のギャンブル行動を分析することも有効である。このような視点でギャンブルを捉えることで、「意志が弱い」などの根性論を排斥することが可能となり、このこと自体が患者の回復を促進するための重要な意味を持つようになる。本研修では、ギャンブル障害への行動介入の基礎となる概念の解説をし、これらの概念を用いたギャンブル障害への介入について説明、練習をしたい。